

山本かずや 議員

(一問一答方式)

- ①結婚支援
- ②ICT教育
- ③防災対策



結婚支援について

問 出会いの場として、「うかい」や「いもたき」など既存のイベントとコラボレーションしたお見合い事業を実施してはどうか。本市の観光を若者世代にアピールすることにもつながると思うがどうか。

答 平成28年度から食育啓発を通じて若い世代への男女の出会いの場を提供する料理お見合いイベントを実施しており、これまでに計30組のカップルが成立しています。その他、消防団による取組では、将来的な団員の確保と消防団の活性化、イメージアップを図るため、平成28、29年度に未婚の消防団員を対象に、大洲市消防団員と婚活イベントを開催し、計9組カップル成立しております。さらに自治会での取組として、郷土料理であるいもたきの調理やゲームなどをメニューに取り込んだ婚活イベントを開催し、3組のカップル成立という成果を上げられるなど、市内においてそれぞれに特性を生かしたイベントが開催されています。

引き続き、各担当課、イベント企画者、その他関係機関とも連携して、より効果的なイベントの実施に努めたいと考えています。

また、えひめ婚活支援センターが実施するお見合い事業への登録料を全額補助することとし、積極的な登録を働きかけていきたいと考えています。

ICT教育について

問 ICT教育の活用は、子供たちの主体的・対話的な学びの実現や効率的な学習が期待できるが、一方で、過度な依存や思考力の低下につながる懸念もある。どんな配慮や工夫をしているか。

答 児童生徒が物事の良し悪しを考えて評価、判断する力や創造性への影響、個人情報や著作権の保護に関する危険性の整理が必要であると考えています。

一方で、学習指導要領では、学習の基盤となる資質能力として情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見したり自分の考えを形成したりするために必要な能力である、情報活用能力の育成が位置づけられており、新たな技術である生成AIの正しい活用を身につけさせるといった視点も必要になってくると言われています。

文部科学省からも、今年の夏頃には学校現場での生成AIの利用に関するガイドラインについて策定、公表される予定となっており、その内容に基づき、各学校へ指導、啓発を行っていきたいと考えています。

防災士の養成について

問 全国的に防災士の役割が重要視され、全国でも積極的な防災士養成の取組が進められているが、本市では防災士の資格取得をどう後押ししているか。また、本市職員の有資格者は何名か。

答 防災士は、地域や職場などにおいて共助につながる影響力を持つ重要な役割を担っており、地域防災力の向上に欠かせない存在であると考えています。

現在、資格取得の支援については、地域防災リーダーとして活躍を期待する自主防災組織の方や、小・中学校で児童生徒の命を守るために、職域リーダーとして先生方の資格取得を優先しながら、若い市職員の資格取得も推進しています。

支援の内容としては、受講等に係る経費を市で毎年予算化し、全額負担を行っています。受講枠についても、令和4年度に30名から40名に増やし、より多くの希望者が受講できるように拡充を行っており、今後も取得支援を継続していきたいと考えています。

また、資格取得のスキルアップも実施しています。県などが主催する各種研修会を案内し参加いただくほか、本市の事業としても年1回防災士スキルアップ研修を開催し、テーマを変えながら防災士として見識を深めていただいているところです。

なお、市職員の防災士取得者数は現時点で81名となっています。